

(Pan troglodytes) (T. P. は近心型) の dp' と dp_i の形態について比較し、報告した。この結果、ヒトはチンパンジーと比較し、 dp' の talon が狭くなり、 dp_i の talonid が広くなる傾向を認めた。

今回は、チンパンジー dp' と dp_i の咬合関係について明らかにするために、京都大学霊長類研究所蔵のチンパンジー (Pan troglodytes) 幼体の 8 頭分の dry skull を用いた。まず dry skull より歯列石膏模型を作製した。この歯列石膏模型の規格写真を撮影し、5 倍に拡大し、歯、歯列の形態をトレースし、上下顎の重ね合を行い、上下顎の歯の咬合関係を観察した。

結果

- 1) 乳犬歯より遠心の歯 (乳犬歯、乳臼歯) の咬合関係は、全ての個体でよく類似しており、ヒトのような不正咬合は認められなかった。
- 2) 全ての個体で、 dp' の protocone は、 dp_i の talonid basin に咬合していた。
- 3) dp' の protocone は、talonid basin の近遠心径を 1 としたときに、近心より 0.63 (SD: 0.10) の位置に咬合していた。
- 4) 全ての個体で、 dp' の distal trigon crest は、 dp_i の hypoconid と hypoconulid の間に咬合していた。
- 5) 全ての個体で、 dp_i の hypoconid は、 dp' の trigon に咬合していた。

コモンマーモセット (Callithrix jacchus) 舌乳頭の微細血管構築について

太田義郎・奥田仁志・岡田成賛・戸田伊紀
(大阪歯大・解剖)

消化器官として食物を最初に取り入れる口腔領域の諸器官の形態には多様性がみられ、なかでも舌乳頭は著しい動物種差を示す。著者らは Ohta ら (1990) の方法を用いてコモンマーモセット舌乳頭の微細血管構築を走査電顕で観察した。

コモンマーモセットの舌には糸状乳頭、茸状乳頭、有郭乳頭、葉状乳頭の 4 種類が観察された。糸状乳頭は基本的には環状集合糸状乳頭で、舌体部では少数で小型の集合を示し、舌根部では大型になっていた。環状配列の中心には小型の糸状乳頭が存在していた。茸状乳頭は球状で、舌尖部では舌側縁にかけて多数存在し、舌体部では急激に

減少し、上面には味蕾が存在しない。3 個の有郭乳頭は露出型で、上面観は両側の乳頭は円形、正中の乳頭は前後に長い楕円形を呈していた。味蕾は乳頭側面の上皮層内に少数認められた。葉状乳頭は舌側縁後方で 3、4 個で少なく、二次乳頭も小さく、少数の味蕾を認めた。舌粘膜は薄く不明瞭で、粘膜固有層の細動脈・静脈の血管網は同一平面上に存在し、ニホンザルに比べ粗で、動静脈吻合も非常に少ない。微細血管構築として糸状乳頭では固有層の細動脈から直接毛細血管が各乳頭に向けて派出され、糸状乳頭には単純な hair-pin 型毛細血管ループが分布し、それらが環状に配列していた。中心にある小型の乳頭にも毛細血管ループが分布していた。茸状乳頭では 1 本の毛細血管が中央を上行し、周囲に向け籠状の乳頭内毛細血管網を形成し、舌尖部と舌体部に差は認められなかった。毛細血管網からの血液は乳頭間毛細血管網に続き、固有層の細静脈に注ぐ。有郭乳頭では 2、3 本の毛細血管が乳頭中央を上行し、周囲に向けて枝を派出し、乳頭側面で毛細血管網を形成し、外側にある乳頭上面では毛細血管ループを認め、正中の乳頭上面では網目を呈し、乳頭内毛細血管網を形成していた。葉状乳頭では毛細血管ループは形成されず、上皮血管網が稜状に盛り上がった形態を示す。

コモンマーモセットとの舌乳頭の形態はニホンザルのような部位差は認められず、血管構築でも単純な形態であった。このことは食性がより限定されたものであると考える。

なお、平成元年度共同利用研究報告書未提出者と研究題目は以下のとおりである。

平成元年度共同利用研究報告書未提出者

- 計 3-1 「屋久島ニホンザル自然群におけるワカオスの社会関係」
鈴木 滋 (京大・理)
- 7-1 「音信号弁別行動と聴性誘発反応との関係、とくに遅い反応と認識・注意との相関」
亀田和夫 (北大・応電研)
- 自 2 3 「霊長類の舌骨装置構成要素および喉頭との連結様式の組織学的検索」
野首和人 (東邦大・医)